

合併問題について町長の真意を問う

民意を生かし合併に向けて努力する



宮本 昭一 議員

町長は二期目にあたり、合併を公約に掲げている。これまでの経過と現状についてどのように受けとめているか。

実現に向け

努力してきた

町長

民意を生かし、議会との合意形成のもとでの推進を公約しており、住民アンケートの結果、民意は志布志市との合併を望んでいる。合併特例新法の期限内での合併実現に向けて努力してきた。

当初から合併した場合大崎町分の特例債は

宮本議員

最初から合併した場合、本町の税収の10年分に相当する100億円位の特例債が認められたのではないか。これを活用すれば、2倍の収入で予算を組み、新たな施策を行うことができたのではないか。

大崎町分は

約106億円

副町長

平成15年に算定された数字では、4町合併では約260億円。3町合併では160億円位が志布志市の合併特例債ではないか。その差額から106億円程度が大崎町分の数字となる。

合併特例債を失ったのは大きな「町民損失」では

宮本議員

合併特例債は、約70%が交付税で算入交付されることから別な意味で3分の2以上の国庫補助事業に値する。有利な補助事業に匹敵する特例債を得るチャンスが町は失った。私はこれを「町民損失」と捉えている。このことは町民に対して大きな財政的打撃を与えたことになるのではないか。

このとおりだと思っ

副町長

正にそのとおりだと思う。確かに合併特例債を使えるのと使えないのでは、財政運営に大きな違いがあったと思ってい

る。民意をどう認識しているか

宮本議員

住民アンケートでは志布志市との合併を52%の住民が望んでおり、何らかの形で合併を望む住民が大多数という結果が出ている。行政責任者として、合併申し入れの文書を志布志市に出さないということは大きく民意に反していると思うが。

志布志市との合併を

望んでいると認識

町長

住民アンケートで民意は志布志市との合併を望んでいると認識しており、民意を生かしていくということは当然だと思う。

町長の信念は

宮本議員

町長は自分の信念である公約について町のトップとして責任ある行動をとって進めるべきではな

いか。合意形成を図る努力が必要

町長

今まで努力してきたことは事実である。議会としても合意形成の努力をしていただきたい。

合併問題も絡めて今後の行政運営は

宮本議員

人口減、少子高齢化の中で、交付税や税収減、国の補助金カット等の影響で普通建設事業費等歳出の面での予算も抑えられている状況である。一部事務組合による公共施設等の老朽化や学校施設の耐震補強問題、畑かん事業の負担金等、合併問題と絡めて、今後どのような方向で行政を進めていく考えか。

限られた財源の中で

町長

厳しい財政であるが、真に必要な事業等に投入

し、行財政改革を継続していきたい。

家畜集合指導センターの扇風機設置は

宮本議員

本町の繁殖雌牛飼養頭数は、曾於市末吉町に次ぐ規模である。畜産農家の要望を踏まえ、家畜集合指導センターに常設の大型扇風機の設置が必要ではないか。

移動式扇風機で

対処する

町長

必要性については理解しているが、常設は行わずその都度、移動式の扇風機で対処したい。



大型扇風機の設置が望まれる家畜集合指導センター